学校だより

令和4年１１月３０日
１２月号
岩国市立岩国小学校

～子どものほめ方～

校長　清　　寿光

早いものでもう今年の最後の月、１２月になります。朝夕と日中の寒暖の差が大きく、体調管理が難しい時期ですが、子どもたちは元気よく友達と遊んだり勉強したり、毎日の生活を楽しんでいます。

さて、「子どもは、ほめて育てると良い」ということは、すでに通説となっているように思います。皆さんは、お子さんがテストで百点をとって帰ってきたとき、徒競走で１等だったとき、お子さんにどのような言葉をかけますか。私もそうでしたが、たいていは、「百点だったの。よくがんばったね。」「徒競走、１等だったね。すごいね。」というほめかたをすると思います。これは一見、適切なほめ方のように思えますが、その裏には、「百点だったから」「１等だったから」ほめるという結果主義が見えます。そうやってほめられてきた子は、「百点でなければ（１等でなければ）うれしくない」というこだわりが強くなり、そこに至る過程を楽しめなくなる可能性があるということを、以前ある研修会で教わりました。

一人ひとりの子どもが、同じように努力をしても、全員が同じような結果になるとは限りません。その結果が満足のいくものであってもなくても、そこに至るまでの過程を十分に認め、ほめてあげることが大切です。特に結果が良かったときなどは、ついその結果ばかりをほめてしまいがちになりますが、そういうときこそ、そこに至るまでの過程を認めることを大事にしていきたいです。

子どものほめ方には２種類あるということも、その研修会で教わりました。一つは前述したような、子どもがやり遂げた、努力したことを認めるほめ方です。

もう一つは、子どもの存在そのものをほめることです。これは、特に何かをしなくてもほめられる、文字通り存在するだけでほめられるというものです。どちらもとても大切ですが、ご家庭で特に大切にしていただきたいのは、後者です。

なぜなら、「あなたがいてくれるだけで嬉しい」ということを伝えられるのは、一番身近な家族のほかにありません。けれども、「存在そのものを認める」ことは、頭の中では思っていても、日常では、あまり子どもに伝えていないのではないでしょうか。子どもは誰かに「存在そのものを認められている」と思えるだけで、長所も短所も併せもった自分を「価値ある人間だ」という自己肯定感を育てることができます。自己肯定感を育んだ子どもは、他者の違いを理解し、認め、他者を思いやることもできます。成功や優劣に関係なく、「みんながいてくれるだけで嬉しい」というメッセージを、私も岩国小学校の子どもたちに、これからも大切に伝えていきたいと思っています。

土曜参観日【11/19（土）】

先日はお忙しい中、たくさんの保護者の皆様に御参観いただきありがとうございました。今回も感染症拡大防止に気をつけての参観日となりました。保護者の皆様にはいろいろと御協力いただきありがとうございました。子どもたちも保護者の皆様に見てもらえる嬉しさで、いつもより張り切っている姿が多く見られました。世の中ではコロナウイルス感染症の第８波とも言われ、今後の感染拡大が心配されますが、学校においても今まで通り感染症拡大防止に努め、子どもたちが元気に過ごせるよう頑張っていきたいと思います。

岩国市では、冬季休業中の学校閉庁期間を延長し、教職員の心身の健康増進や休暇取得促進を通して、学校運営の改善や教職員の働き方改革を推進することとしており、今年度は、12 月 28 日（水）から１月４日（水）を学校閉庁日とします。

学校閉庁日における緊急時には、岩国市教育委員会を通して各学校長に連絡するようにしていますので、緊急の際は、岩国市教育委員会学校教育課または岩国市役所に御連絡ください。

＜緊急連絡先＞　岩国市教育委員会学校教育課　TEL 0827-29-5203（12/28・1/4）
岩国市役所　TEL（代）0827-29-5000（12/29～1/3）